

袋高通信

# あいのだより

'18 7月号

7月20日発行

通巻第169号

静岡県立袋井高等学校

## 「未来」

PTA会長 鈴木 弘睦

平成三十年度静岡県立袋井高等学校 PTA会長を務めさせていただく事となりました。鈴木弘睦と申します。

また、日頃より御父兄・教職員の皆様にはPTA活動に多大なる御理解と御協力を賜りまして、誠に有難うございます。役員一同、全力で取り組んで参りますので、一年間よろしくお願い申し上げます。

さて、高度情報化やグローバル化など急速な変化の中で、高校生の教育環境や生活環境は大きく変化をして参りました。インターネットやICT機器の普及により学校教育の中でもICTを活用した教育が進められるなど、私が高校生の時代には予想もなかった事が、現在の教育現場では行われています。

また、子どもたちを取り巻く社会環境も人口減少、少子・高齢化、産業空洞化などの課題が深刻化する中、世界から見ても日本は、課題先進国と申し上げても良いのかもしれない。

そのよつな中、私たちはこれまでの価値観、社会のあり方を根本から見直し持続可能な循環型社会の実現、自立した新たなコミュニティの実現など、新しい生き方、新しい社会の建設を目指していくことが求められています。それは、豊か

な社会を築いて頂いた先人達から、私たちに課せられたミッションだと思えます。

そして、子どもたちは理想とする未来の姿を思い描きながら、今ここにある現実を、少しずつ変えることができる存在であります。未来を創造する無限の可能性を秘めております。

しかし、既存の生き方や価値観やシステムに黙従し、思考を停止したままでも生きていくことも可能ですが、そこには未来はありません。国内で起きた数々の災害を目の当たりにして来た子どもたちだからこそ、世界中の誰よりもその事を理解していかれていきたいと思います。

袋井高等学校の基本理念にもある、自ら求め学び自ら考え表現できる能力を育てる事は、これからの未来を切り開く為には重要なスキルであります。

袋井高校に通う生徒一人一人が、袋井高校の歴史と伝統を築き上げるバイオニアであります。

目の前には緑豊かな袋井の丘、遠方には富士山、南方には太平洋と大自然に囲まれている素晴らしい環境を誇りに、それぞれの道を築いてくれることを期待しております。出来る子どもたちだと確信しております。

校章が示す楨の葉の様に、生徒・教師・父母の三者一人一人が互いに手を取り合って、より良い高校づくりに取り組む歴史を積み上げて参りましょう。

社会環境がどの様に変化しようとしてPTA活動は子どもたち一人一人の幸福の実現と健全育成に資する事を目指しております。今後とも御父兄の皆様方には積極的なPTA活動への御参加をお願い申し上げます。本年度PTA役員の皆様や教職員の皆様には各委員会の活動をすで行なうて頂いておりますが「参加してよかった」「楽しかった」「役員をやってよかった」と言って頂ける様に工夫して参りますので、御協力の程お願い申し上げます。

結びに、昭和五十一年創立四十三年の歴史ある袋井高等学校PTA会長を務めさせて頂けることに感謝申し上げ、恐縮で御座いますが書面にて御挨拶申し上げます。



# 一年だより

## 日々の積み重ねを大切に

熱しやすく冷めやすい。個人差はありますが、若者とはそうしたものです。入学してから三か月が過ぎて高校生活にようやく慣れた今、入学時の志に対する熱い思いは、ともすれば冷めてしまいがちです。

我が袋井高校一学年では、入学当初、環境が一変したために抱えていた違和感もようやく薄らぎ、生活のリズムも整って、落ち着いた学校生活を送っているように見受けられます。真剣に授業を受けるまなざしはさすがに、勤労体験学習で校舎を清掃する際のさわやかな。線風祭の準備をするためのつづみで話し合っ熱心さ。その都度一生懸命に活動する姿には感心するばかりです。

しかし、やはり若い人たちのことですから、「熱が冷める」ことはもちろんあります。

では、どうするか。

目標を定める。その目標も、卒業

後の進路目標のように長期的なものだけでなく、たとえば学習、部活動、日々の生活など、短期的な目標をその都度立てていくことが大切です。小さな目標であっても達成すれば無上の喜びを感じますし、自信にもなります。その積み重ねによって、大きな目標が達成できるようになります。

模擬試験を例に挙げてみましょう。七月七日に初めての全国模試がありました。一学年では、六月第四週、各科目の目標を個々に設定しました。そして、その目標を達成するためのどのような対策が必要なのかを考えました。模擬試験の後には自己採点をし、振り返りをするところも、改善点を検討しました。きっと、その発見を生かして、今、生徒のみなさんは新たな一歩を踏み出していることと思います。いわゆる「PROCAサイクル」がきちんと行われるようになってきているのです。

こういった経験は、日々の生活でも生かすことができます。自分自身の生活を振り返り、次の目標に向かって主体的に行動できるように成長していきましょう。

(一) 一学年主任 大石真理

# 一年だより

## 第二の覚醒

将来の目標は未定。希望大学、学部ごころか、進学・就職すら決まっていない。K君の二年生一学期はそんな状態であった。

家庭学習はほとんどしない。成績も底辺。お調子者のカッパけたが。そんな彼に転機が訪れた。

祭りの夜、ビール片手に歩いていくところを補導されたのである。

当時は非行があると反省の意味で坊主頭。朝七時から夜七時まで学校に閉じ込められ強制的に勉強を二週間。それまで本気で勉強などしたことがなかったわけで、効果はつき面になる。

「勉強のおもしろさ」を知った彼はこのあと大学に進学し、今は某所で教員として第二の覚醒を語っている。

K君は部活のために学校に通っていた。七時から朝練、八時まで正規練習。それでもきちんと勉強する生徒も多いが、気力も体力も部活に使い果たしている彼には余裕はなかった。

しかし、ある特定の科目だけは違った。彼が初めて出会った「勉強しておもしろい」科目であった。

成績はこの科目だけトップ。あとは平均以下。「大学に進学してこの科目を究めたい」と思った彼は気づいた。「一科目では大学に行けない」その後成績を伸ばし第一志望に合格できなかったが、同じ勉強ができる国立大学に後期で滑り込んだ。

教員は学校で、保護者は家庭で、勉強の大切さ、努力することの尊さを説く。伝わらないもどかしさにも、がく毎日である。

しかし、何かきっかけを掴んでくれさえすれば、とんでもない成長を見せてくれるのが高校二年生である。

「覚醒」を期待し、「覚醒」にながる材料を選びすべりながら、生徒たちに提供していききたい。

(二) 三年学年主任 加藤久仁寿



三年だより

夏休みの学習計画

全国に広がる模範校四十二回

夏休みはまとまって時間が取れる最後の機会です。これを有効に使うことで実力アップを図りましょう。

目標は一日十時間の学習時間の確保(当然実行)、一日二十四時間のうちどうしても必要な時間(睡眠、食事など)を除くといつたい何時間残りますか?それが三年生諸君の学習時間になるはずです。そこでこれだけの時間が確保できるかが勝負の分水嶺になるのではと、思います。加えて二学期からはこれから学校で過ごす時間が減るとすればこれだけの時間が確保できるのでしょうか。誰もが平等に与えられているものが「時間」だと思えます。有効に使いましょう。

「学問に王道なし」です。安易な道は無く、誰もが等しく経ていかなければならない道があります。これを意識しましょう。

それでは具体的に、夏休み終了までに必要なことは

①受験科目は全国編準備五〇以上

②五十七合計科目は九〇〇点満点で五〇〇点以上です。これを具体的な目標に。

そのためにどうしたらいいか一つのモデルプラン、

勉強は繰り返しが大事です。たくさん教材に手をつけることで満足していませんか?

第一期 七月中 教材収集(補講・自分で準備した問題集)

第二期 八月十五日 復習期(第一期の復習・解き直し・弱点確認)

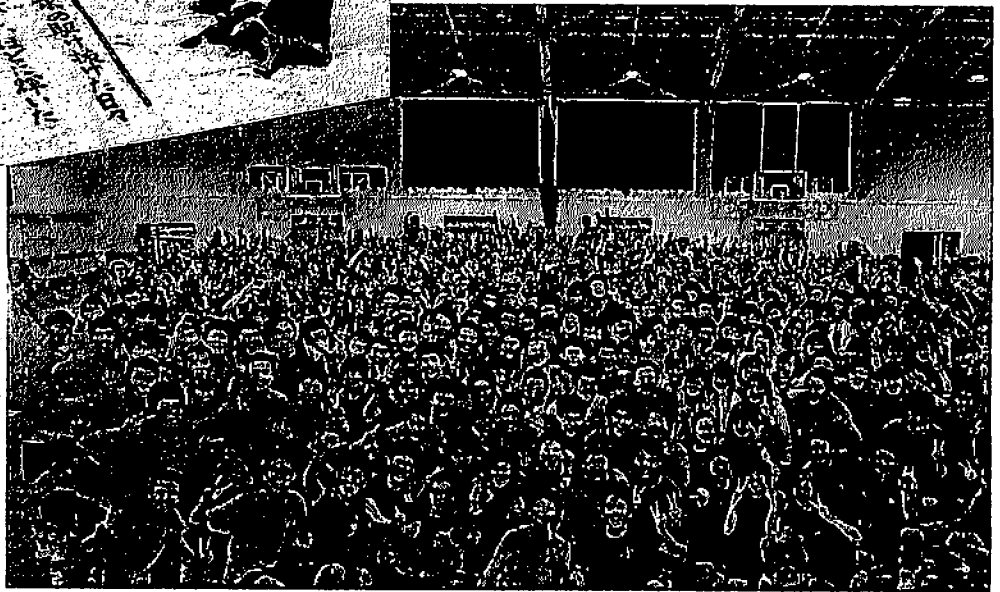
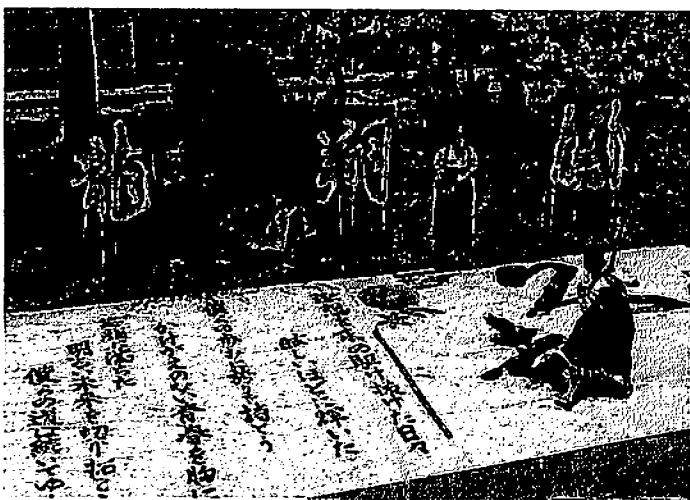
第三期 八月三〇日 定着期(もう一度繰り返すことで定着を図る)

加えて夏休みは苦手克服の最後のチャンスです。苦手である原因の分析(知識不足・考え方不明など)を。模擬試験が八月中心(二回)マーク記述)あります。これを来年センター・前期(後期)と見立てて学習計画を立てるのも一つの方法かと思えます。

すべての三年生諸君が充実した夏休みを過ごし、先の目標を達成することを望みます。

ご家庭のご協力をお願いします。

(三年学年主任 渡辺克彦)



## 一学期の取り組みより

### 進路課

進路室の隣に、自習室があります。授業が始まる前に利用する生徒もいれば、放課後利用する生徒もいます。静かに学ぶ真剣な姿にいつも励まされる思いです。

一学期の進路課では推薦規定の見直しを行いました。お子様の進路希望を叶えるためには、第一志望校を目指して実力を蓄えていくのが一番の王道であることに変わりはありませんが、全大学入学者の四割が推薦入学という近年の実態を鑑み、指定校推薦のリストを開示して、第一志望校と一致した場合は、候補者として名乗りをあげることができるようになったのが、主な見直し点です。

受験の天王山とされる夏休みは、学習していても孤独で苦しく先が見えない不安で、行きたい大学がいつの間にか行ける大学に切り替わってしまう危険な時期です。しかし、厳しい模試の判定に耐え初志貫徹することが、志望校合格への最も確実な手段であり、卒業後の自分自身を支えることとなります。お子様が大志を抱き続け、自分で自分の限界を作らないよう、ご家庭での暖かい励ましをお願いたします。

二学期に、進路の手引きを刷新いたしました。二冊目になっており、一冊は卒業生の進路データなどが記

載された従来のしおりを簡略化したもので、毎年更新し配付します。

もう一冊は一年生が受験する新テストの動向や、奨学金制度、学費について、就職の現状などがコンパクトにまとめられており、三年間を通してLHRや学年PTAなどで使用する予定です。一度じっくりと目を通していただけ、お子様が直面する入試についてご理解の一助にしたいだければ幸いです。

先日参加した研修会で、一年生は自分たちから大学入試が大きく変わるということを自覚し、対策をしているが、二年生こそが実は一番対策が必要だと聞きました。絶対浪人できない背水の陣で臨む入試ならば、対策は例年と同じでいいはずがありません。三年生の卒業アンケートなどを見ると二年の三学期から受験モードになればよかったですという反省がよく見られます。ならば、今年の二年生は修学旅行明けから切り替える必要があるのではないのでしょうか。振り返って悔いの残る高校生活にならないために、今何をすべきか、見つめなおしてほしい夏です。

(課長 大村生実)

## 一学期をふり帰って

### 生徒課

一学期が終わり、長期の夏季休業に入ります。一学期を振り返ってみ

て、どういつ学期になったでしょうか。勉強に部活動に学校行事に精一杯努力できたでしょうか。

年度当初、学校長から年度目標が話されました。生徒課としては(一)部活動、特別活動へのきめ細かな支援により、生徒の主体性、自立心の涵養を目指す。(二)きれいな教室・廊下、美しい身なり、気持ちの良い挨拶・言葉遣い、大きな声での校歌斉唱を目指す。おもに以上の二項目です。その中でも、今年度重点に置いているものは以下の三点です。

挨拶…明るい挨拶を行う。

言葉遣い…場にふさわしい丁寧な言葉を使う。

礼儀マナー…規範意識を身に付ける。(大人、社会人として必要な生活習慣)

当たり前のごとですが、今後の社会で活躍する人材となるために身につけていく習慣です。一年間を通じて自己を磨いてもらいたいです。

さて、一学期には学校行事の柱ともいえる「縁風祭」が行われました。「おもてなしの心」は、文化祭における本校の伝統的な精神です。今年度は「彩光」をテーマに、生徒会執行部を中心に生徒各自がそれぞれの立場で積極的に参加し充実した時間を共有できたのではないかと思います。三年生は、毎年この「縁風祭」を境に、受験モードに突入していきます。その様子を下級生もよく見て

おいてもらいたいと思います。

また頭髪・服装に関しては、ほとんどどの生徒は大きな問題もなく、袋井高生としての品位を保っていると思います。二学期もこの状態を保って欲しいと思います。一方、携帯電話をしながらの運転やウォークマンを聞きながらの運転といった違反行為も見られるなど、交通安全マナーの改善がなされていないことは本校の大きな課題となっています。近隣の住民の方から自転車の通行に関する苦情がありますし、警察から、自転車は「車」と同じなので、車道(左側の隅)を通行し、許可をされた歩道以外は通行しないように注意があります。ご家庭においても「命の大切さ」の観点から、交通安全教育を行っていただきたいと思います。まだまだ、校外での生活には不安はあるものの、学校における学習や部活動また生徒会活動では生徒たちが健全性を感じます。しかし現状に満足せず、袋井高校生としてのプライドをもって生活してもらいたいと思います。

終業式には、「夏季休業中の諸注意」が配布されますので、よく読んで長期にわたる生活を充実した期間にしてください。

(課長 澤木 徹)

